

III 乳腺画像診断のための Web 教育の可能性

3. Web を活用した
超音波勉強会の実際

三塚 幸夫 東邦大学医療センター大森病院臨床生理機能検査部
前田奈緒子 Sono +

2019年12月に中国で、そして2020年1月には国内でも新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の患者が確認され始めたコロナ禍だが、これによりわれわれの生活は大きく変化した。学校教育においても、休校になったり、オンライン授業が導入されたりと変化していく中で、学会や講習会などの学術・教育活動においても変化を余儀なくされた。筆者が関与した学会関係の業務や学術集会、講習会や講演などにおいても、多くはWeb開催に置き換えられ、これによるさまざまな功罪が見られた。COVID-19の5類感染症移行後の本稿を執筆している時点においても、ちまたでの動向とは異なり、医療業界におい

てははまだ完全に終息したとは言えない状況ではあるが、徐々に従来形式の活動に戻されていく中で、コロナ禍の前後を通して行ってきた赤坂乳腺超音波勉強会での活動を中心に振り返り、Webを活用した勉強会のメリットとデメリットについて考えてみたい。

赤坂乳腺超音波勉強会の
実際とコロナ禍前後での
比較

赤坂乳腺超音波勉強会はもともと、よしもとプレストクリニックの関係者を中核とした小さな勉強会として始まった。

徐々に参加者が増え、開催規模が拡大されていく中で、2017年9月に開催した第8回勉強会からは赤坂乳腺超音波勉強会として、年2回、平日の夜に開催している。参加者の中からランダムに指名し、超音波所見を読ませる参加型の症例検討を中心とした勉強会で、開催回によっては外部の講師や世話人による講演、ミニレクチャーなども行ってきた(表1)。コロナ禍前の現地開催では、東京都内にて世話人の所属施設の講堂や近隣の貸会議室などを利用して開催してきたが、2020年3月に予定していた第13回はコロナ禍の影響で中止となり、その後も収束の兆しが見えないことから、2020年10月

表1 赤坂乳腺超音波勉強会の開催内容

第9回から第19回までの開催内容と開催形式(開催地)を示す。平日の18:30～20:30の2時間程度で症例検討を中心で開催し、開催回によって20～30分程度の講演やミニレクチャーも行ってきた。

	内 容	開催形式 (開催地)
第9回(2018年3月)	ミニレクチャー：薬剤性心不全について～心エコー技師の立場から～ 症例検討(4症例)	現地開催 (大崎)
第10回(2018年9月)	講演：小田原での乳癌診療の現状～検診精査例の検討を含む～ 症例検討(5症例)	現地開催 (有楽町)
第11回(2019年3月)	講演：乳腺腫瘍組織型診断の考え方 症例検討(4症例)	現地開催 (有明)
第12回(2019年9月)	ミニレクチャー：ドブラ法について～基礎から考えるちょっとしたコツ～ 症例検討(5症例)	現地開催 (大崎)
第13回(2020年3月)	コロナ禍により中止	
第14回(2020年10月)	症例検討(5症例)	Web開催
第15回(2021年3月)	講演：これからの乳房超音波検査～AI診断について～ 症例検討(4症例)	Web開催
第16回(2021年9月)	症例検討(4症例)	Web開催
第17回(2022年3月)	症例検討(5症例)	Web開催
第18回(2022年9月)	症例検討(5症例)	Web開催
第19回(2023年3月)	症例検討(5症例)	Web開催